

令和2年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	教材開発		部 会
2 研究所員 ◆：代表者	◆野口 貴史（栃木中央小） ・越沼 有子（大平西小） ・板橋 由佳梨（三鴨小）	・大橋 和裕（栃木西中） ・田中 康裕（寺尾中）	事務所員 ・大橋 信広 ・古橋 奈美 ・宮堀 純也



3 研究テーマ

子どもの思考を見取る教材（課題）作り

4 研究の取組

(1) 研究内容

- ・思考を深めるための教材づくり（日常的な場面の教材、歯ごたえのある課題）
- ・思考を深めるための授業の工夫（教材の扱い・教材観、提示方法、授業展開、ICTなど）
- ・評価としての思考（どんな姿が思考していると捉えるのかなど）

以上3点を今年度は授業参観を中心に授業分析して研究を進める。

月 日	研修内容	月 日	研修内容
8月12日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	12月1日	越沼先生授業参観 第4回研修会及び越沼先生授業研究会
10月2日	第3回研修会・指導案検討 各自テーマに沿った事例紹介	1月29日	田中先生授業参観及び研究会
11月11日	板橋先生授業参観及び研究会	2月9日	第5回研修会
		2月19日	2年次経過報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・それぞれの先生方の授業参観等から、子ども達が思考するためには、教師側の教材の見方（どのような視点・切り口で教材を捉えるか）が大きく影響していることが分かった。
- ・子どもの実態に即した課題を前提としたうえで、様々な条件での課題解決や解法が複数考えられるなどの余白（不確定な部分）がある課題を提示することで、より児童の思考が深まる場合が多いことが分かった。
- ・普段の課題意識のもとせ方や思考の過程（どうやってできるか、なぜそうなるのかなど）を意識して学習に向かわせる日常的な学業指導も思考を深める土台として重要な役割を担っていることも共有することができた。
- ・授業研究会を通して、教材のもつ良さだけでなく、教材を扱う教師側の意識によって大きく変化し、より教材そのものの良さが生き、子ども達の思考もより深まることが分かった。

【課題】

- ・子ども達の思考を支える教師側の授業観として、思考するための十分な時間を確保すること（反応がないと思われがちな静寂）、教え込みすぎず、失敗や想定外を経験させることで生まれる試行錯誤の時間を大事にすることなど、これまでのいわゆる「先生が進めやすい授業」・「先生がまとめやすい授業」にとらわれない授業展開も必要だということが分かってきた。
- ・実践例を多く積み重ね、成功例だけでなく上手くいかなかった実践も紹介することで、先生方により身近に感じてもらいながら、教材の幅広い見方について、視野を広げられるようにしていきたい。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

今年度の成果と課題を踏まえ、次年度は教師側の教材の見方について研究を深めていきたい。新しい教材を生み出しだり、考えだしたりすることだけでなく、教科書の教材など既存の教材の見方をどのように変えることで思考を深める教材にできるかに重点をおいて研究していきたい。また、思考を促すための様々な手立てや教師側の授業観についても多くの先生方に分かりやすい形で発信できるように、思考を深めるための「キーワード」を意識して研究を進めていきたい。教材観と指導観を総合的に捉えた「授業デザイン」という枠で授業を創っていくことができるようにしたい。併せて、教材開発部会という部会名の改名も考えていきたい。